◎◎◎佳作

まぼろしの退職記念旅行

渡辺幸夫
秋田県・六四・会社役員

玉枝さん、「退職記念に、二人で旅行をしようヨ」との約束を果たさぬままに還暦が過ぎてしまいました。

思えば、あなたとは不思議な出会いに始まり、現在もまた奇妙な間柄としか表現のしようがありませんネ。

高校を出たばかりのあなたが、町役場の家屋調査のアシスタントとして、脱穀作業中のわが家に見られたのが最初でした。

洗練された都会的センスにあふれ、とても一介の農家の若造などには、触れることすら許されぬ初々しい清純な乙女でした。

しかも、名のある家の娘さんで、皮肉にも私の父もまた、あなたのお母さまに適わぬ思いを寄せていたことを父の没後に知りました。

それから十数年、社会の激変に伴い農業環境も厳しく、誘われるがままに再就職した農協で、すでに職員として勤務しておられた、あなたとの再会に驚きながらも、お互いに大事な補助事業を任されて、多忙な現場の管理と不慣れな事務処理に、夜遅くまでの苦労の連続でしたが、互いに支え合う喜びと、冒し難いあなたの魅力に陶酔しておりました。

あの頃の農協の定年制度は男が五五歳で女は四五歳、奇しくも同じ年に定年を迎えることから、「退職したら、二人で旅行しない、フルムーン旅行を」と言う冗談とも本気ともつかぬ、あなたの言葉に年甲斐もなく顔を赤くしたものです。

しかし、まもなく私は町の誘致企業の経営管理者に転職、あなたは定年制の改正で今でも現役を続けられ、時折誘い合って夕食を共にしているものの、出会ったときの清純さと冒し難い魅力が邪魔をして、それ以上のこともなく、ただあなたの心を虜にできた嬉しさに浸りながら、まぼろしの「退職記念旅行」の実現を夢に見ている毎日です。